

■4月13日（水） <相克は越えられるのか>

「歴史の名言から未来を読む」

竹中 平蔵 (たけなか へいぞう) 慶應義塾大学名誉教授、東洋大学教授

1973年に一橋大学経済学部卒業後、日本開発銀行入行。同設備投資研究所、ハーバード大学、ペンシルバニア大学客員研究員、大蔵省財政金融研究室主任研究官、大阪大学経済学部助教授、慶應義塾大学総合政策学部助教授を経て、1996年同大学教授に就任。経済財政政策担当大臣、金融担当大臣を兼任後、経済財政政策・郵政民営化担当大臣、総務大臣兼郵政民営化担当大臣を歴任。2006年より現職。昨年、『400年の流れが2時間でざっとつかめる教養としての日本経済史』『不安な未来を生き抜く知恵は、歴史名言が教えてくれる「明日を変える力」を磨く55の言葉』と、歴史からの学びにフォーカスをあてた書籍を次々と発刊。



■4月14日（木） <見たことのない時代を拓く>

「長期利益の源泉を考える：オポチュニティとクオリティ」

楠木 建 (くすのき けん) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

1992年に一橋大学大学院商学研究科博士課程修了。2010年より現職。専攻は競争戦略とイノベーションで、ボッコロニ大学（イタリア、ミラノ）、マギル大学（カナダ、モントリオール）、ミシガン大学（アメリカ、アナーバー）といった海外のビジネススクールでも客員として講義を担当。著書『ストーリーとしての競争戦略は本格的経営書として異例のベストセラーとなった。趣味は読書で、読書記録を twitter (@kenkusunoki) で公開中。



■4月19日（火） <しなやかに生きる>

「継続する心」

山本 昌 (やまもと まさ) スポーツコメンテーター

1984年ドラフト5位で中日ドラゴンズに入団。以来、中日ドラゴンズ一筋で3度の最多勝に輝き、1994年には沢村賞を受賞。50才まで現役投手として活躍し、在籍年数はプロ野球史上最長記録となる。2006年のノーヒットノーラン、2008年の通算200勝をそれぞれ史上最年長で達成し、史上最年長先発の記録など、数々の最年長記録を樹立。「中年の星」と称されたその生き様から、多くの学びを得られるのではないのでしょうか。



■4月27日（水） <経営の筋力と弾力>

「なぜあの人は経営のプロと呼ばれるのか？」

山根 節 (やまね たかし) 早稲田大学大学院教授(ビジネススクール)

慶應義塾大学名誉教授(ビジネススクール)

公認会計士。コンサルティング会社代表から、慶應義塾大学大学院経営管理研究科・ビジネススクール助教授に転身し、米国スタンフォード大学客員研究員を経て、2001年教授就任。2014年3月慶應義塾大学を定年退職（名誉教授）し、2014年4月から現職。RJCカーオブザイヤー選考委員、経済産業省「子育て支援サービス産業研究会」座長ほか公職を多数務める。この春『なぜあの人は経営のプロといわれるのか？（仮タイトル）』刊行予定。これまでの研究を通しての知見から、「経営のプロ」について読み解きます。



■5月27日（金） <変わりゆく神話をめぐって>

「悪との向き合い方」

姜 尚中 (かん さんじゅん) 東京大学名誉教授、熊本県立劇場館長

1950年熊本県熊本市に生まれる。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。国際基督教大学助教授・準教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授、聖学院大学学長などを経て、現在東京大学名誉教授。テレビ・新聞・雑誌などでも幅広く活躍。再登壇を熱望される多くの皆様の声を受け、4年半ぶりの登壇。最新刊『悪の力』にちなんだお話を伺います。



■5月31日（火） <経営の筋力と弾力>

「安心社会から信頼社会へ」

山岸 俊男 (やまぎし としお) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 特任教授

1970年一橋大学社会学部卒業。1981年ワシントン大学で、Ph.D.取得。その後、北海道大学文学部助教授、ワシントン大学社会学部助教授、北海道大学文学部教授、同大学大学院文学研究科教授、玉川大学脳科学研究所教授、東京大学進化認知科学研究センター特任教授を歴任。2014年4月より、現職。社会的ジレンマの研究で広く知られる。2013年度の文化功労者。



■6月2日（木） <見たことのない時代を拓く>

「自然と地域が共生を目指す～共に育み、共に栄える、100年先の企業づくり～」

石坂 典子 (いしざか のりこ) 石坂産業株式会社 代表取締役

経済産業省の「おもてなし経営企業選」に選ばれた異色の産業廃棄物処理会社、石坂産業を率いる石坂典子社長。周辺の農作物がダイオキシンで汚染されているとの報道を機に、産業が批判の矢面に立たされたことに憤慨。創業者である父親に直談判し、2002年社長に就任。埋め立てるのではなく、リサイクルするための技術力や処理能力を独自開発し、徹底した“見える化対策”を敢行。97%減量化・リサイクルを実現し、産業廃棄物の中間処理業のイメージを10年で一変させた。「社員が自分の子供も働かせたい」と言える企業を目指し、女性の感性と斬新なアイデアで産業廃棄物業界を変革する経営に取り組んでいる。



■6月8日（水） <経営の筋力と弾力>

「女性マネージャーを育む、活かす、押し上げる」

高田 朝子 (たかだ あさこ) 法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授

立教大学経済学部経済学科卒業。米サンダーバード国際経営大学院国際経営学修士(MIM)。慶應義塾大学大学院経営管理研究科経営学修士(MBA)、同博士課程修了。経営学博士。モルガン・スタンレー証券会社に勤務後、高千穂大学経営学部専任講師、助教授、法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科准教授を経て、2010年より現職。専門は組織行動、リーダーシップ、経営組織。一般企業の勤務経験もある女性研究者の高田先生だからこそ、理想論だけではない、説得力の高い講演が期待される。



■6月16日（木） <経営の筋力と弾力>

「ラグビー日本代表チームを変えたメンタルコーチ」

荒木 香織（あらかき かおり）園田学園女子大学人間健康学部 教授

京都市生まれ。中学生から社会人1年目まで陸上競技100m・200mを専門とし、インターハイ、国体、インカレなどに出場。その後、渡米し、語学学校・修士課程・博士課程を修了。早稲田大学での助手を経て、シンガポールの大学で2年間教鞭を取る。2008年より現職。ラグビー男子日本代表メンタルコーチとして、2012年より「ラグビーワールドカップ2015」終了まで活動した。日頃よりジャージー姿で練習にも参加するなど、その地道な活動を通して、チームをラグビーWカップの勝利へ導いた立役者の1人。「自主性をキーワードに選手のメンタリティを変える」という荒木先生のアプローチは、自律的マネジメントを求められるビジネスパーソンにも、極めて有効なメソッドである。



■6月20日（月） <しなやかに生きる>

「いつも明るい心で生きて行く」

塩沼 亮潤（しおぬま りょうじゅん）仙台市・秋保 慈眼寺 住職

1968年仙台市生まれ。1987年に奈良県吉野の金峯山寺で出家得度。1999年に大峯山1300年の歴史の中で2人目となる「千日回峰行」を満行。奈良県吉野山にある金峯山寺蔵王堂（354m）から24km先にある山上ヶ岳（1719m）頂上にある大峯山寺本堂まで、標高差1355mある山道を往復48km、1000日間歩き続けた。また、その翌年は、食わず、飲まず、寝ず、横にならずの断食・断水・不眠・不臥を9日間続ける「四無行」も満行され、生き仏とも称されている。



■6月30日（木） <しなやかに生きる>

「東京オリンピックに向けての陸上改革」

原 晋（はら すずむ）青山学院大学陸上競技部監督

1967年、広島県三原市出身。中国電力に入社後、陸上競技部1期生として部創設に参加し、主将として全日本実業団駅伝初出場に貢献。故障に悩まされ、5年目で競技生活から引退。同社でサラリーマンとして再スタート切り、「伝説の営業マン」と呼ばれるまでの実績を誇った異色の経歴の持ち主。そのバイタリティーは衰えを知らず、2004年、青山学院大学陸上競技部監督に就任した後は、ビジネスの経験を生かした「チームづくり」「選手の育成」で陸上界の常識を破り、2015年箱根駅伝で初の総合優勝、今年は2年連続の総合優勝を、1区から一度も首位を譲らない「完全優勝」としての形で成し遂げた。



■7月1日（金） <変わりゆく神話をめぐって>

「日本列島に迫り来る火山と地震の危機 - 「大地変動の時代」を生き延びる-」

鎌田 浩毅 (かまた ひろき) 京都大学教授・地球科学者

1955年東京生まれ。東京大学理学部地学科卒業。「科学の伝道師」としてテレビ、ラジオ、雑誌などメディアで、火山をわかりやすく伝える為、積極的に“アウトリーチ活動(最新の研究を一般の人々へ伝えるための活動)”を行っている。「研究の成果は伝わらなくては意味が無い」「面白くなくては伝わらない」「ならば見た目から面白く」をポリシーに、マグマを思わせる真っ赤な衣装を身にまとい京都大学で教鞭もとる。ただ知識を伝えるだけではないライブ感溢れる授業は学内でも屈指の人気科目となっている。文学や歴史、芸術にも造詣が深く、モットーは「面白くて役に立つ教授」。



■7月8日（金） <しなやかに生きる>

「日本の妖怪文化 - その歴史と特徴 -」

小松 和彦 (こまつ かずひこ) 国際日本文化研究センター 所長

1947年東京生まれ。文化人類学、民俗学専攻。東京都立大学大学院社会科学研究所博士課程単位取得退学。信州大学助教授、大阪大学教授を経て、1997年より現職。民俗学の研究を通して、これまで人が生活の一部として大事にしていた「見えない世界」に魅せられた小松先生。第一人者として、妖怪を軸に日本文化の深奥を探られています。2013年秋 紫綬褒章。



■7月13日（水） <経営の筋力と弾力>

「実践経験を通じて培った実践知としての「リーダーシップの哲学」
-リーダーシップ・ジャーニーを歩むために-」

一條 和生 (いちじょう かずお) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 研究科長 教授・IMD 特任教授

1958年東京生まれ。一橋大学社会学研究科博士課程卒業。ミシガン大学経営大学院にて博士号(経営学)取得。一橋大学社会学部助教授、ポッコロニ大学(イタリア/ミラノ)客員教授、一橋大学大学院社会学研究科教授、IMD教授を経て、2007年より現職。専門は組織論、知識創造論、リーダーシップ、企業変革論。世界のエグゼクティブ教育の第一人者。講演タイトルと同名の新著では、リーダーシップを確立する様々な経験を「ジャーニー(旅)」と捉え、花王 澤田社長、カルビー 松本会長、ローソン 玉塚社長、資生堂 前田相談役など、日本を代表する12人の経営者にインタビューし、まとめた。



■7月28日（木） <見たことのない時代を拓く>

「CSV経営 - 高収益と社会問題の同時解決を目指す」

名和 高司 (なわ たかし) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 特任教授

東京大学法学部卒業後、三菱商事に入社。1990年米ハーバード・ビジネス・スクールでMBA(経営学修士)を取得、日本人として2人目のベーカー・スカラーを授与される。1991年マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。ディレクターとして、日本、米国、アジアなどを舞台に、企業の成長戦略や異業種アライアンス、経営変革に取り組む。2010年6月から現職。「問題解決」と「新興国戦略」を担当。また、2014年より、30社近くの日本企業の次世代リーダーを交えたCSVフォーラムを主催。

